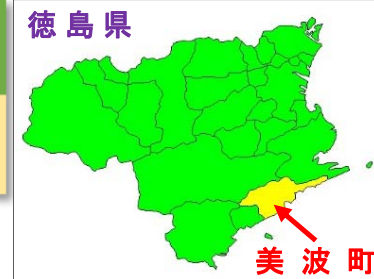


徳島県美波町の取組事例



ポイント 機構を活用して元気なシルバー担い手へ農地を集積

概要

- 美波町は徳島県の南東部に位置し、海岸部は多くが「室戸阿南海岸国定公園」に指定され、風光明媚なりアス式海岸。産業は古くから漁業が中心。
- 農業は水稻が中心で、特別栽培米(乙姫米)の取り組みが慣行となっており、徹底した畦畔の雑草管理を実施。
一方、高齢農家や兼業農家が多く、米価下落を機に営農の規模縮小が進行するとともに、高齢化により担い手が不足。

- (基本データ)
- ・農業地域類型: 山間農業地域・水田型
 - ・総農家数 356戸
 - ・基幹的農業従事者数 152人
 - ・認定農業者数 4経営体(うち法人数 1経営体)
 - ・集落営農数 ー
 - ・農業経営体の経営耕地面積 211ha(田198ha、畑13ha)
 - ・1経営体あたりの耕地面積 82.6a
 - ・主な農作物 水稻
 - ・農業委員数 13人
 - ・農地利用最適化推進委員数 5人

人・農地プラン

人・農地プランの策定方針

- 全53集落を7地区に分類(2地区はすでに実質化)。5地区について実質化に向けた工程表を作成。農業委員や農地利用最適化推進委員をはじめ、機構、JA等関係機関と連携して実質化を推進。

人・農地プランの概要

- プラン数 7(集落数53)
 - ・中心経営体数 37(個人36、法人1)
 - ・中心経営体の経営面積 91ha

農地集積

農地集積の取組方針

- 町、農業委員会は、シルバー担い手から次世代(60代)へのバトンタッチがスムーズにできる集積を推進し、農地の維持・管理が継続できる体制を構築。
- 集落営農組織の立ち上げも視野に入れながら、新たな担い手を育成し、現在、耕作している農地を維持・管理。

農地集積の現状 平成31年3月末現在

- 担い手への農地利用集積面積 91ha(集積率22.6%)

【内訳】

認定農業者	48ha
認定新規就農者	0ha
基本構想水準到達者	43ha
集落営農経営	-ha



シルバー担い手が守る圃場



WCS栽培に取り組む圃場



特別栽培米(乙姫米)



集落座談会の様子

農地集積の阻害要因

貸付相手や畦畔管理へのこだわりから集積が低調

出し手要因

- コメの減農薬栽培が慣行となっているため、畦畔の雑草管理が不十分な農業者には農地を貸したがらない傾向。
- 顔が見える関係を重視しており、見知らぬ担い手の参入を敬遠。
- 転出した地主の息子世代は、地元につながりが無いため、代替わりにより農地の貸付が頓挫。

受け手要因

- 米価下落以降、「稲作農家はもうからないから」と子に継承させようとせず、親元就農が低迷。
- 丁寧な畦畔管理が求められるため、規模拡大が困難。
- 高齢農家は、「規模拡大をしても農地を守り切れず、かえって迷惑をかけてしまう」との思いから新たな引き受けを敬遠。
- 条件不利地（未整備や遠隔地など）は営農効率の悪さから借受に難色。

課題解決に向けた取組（工夫した点等）

町、農業委員会の取組

- 町は、数名のシルバー担い手が地域農業を支えている現状を踏まえ、顔が見える関係を重視し、シルバー担い手が疲弊しないよう配慮しながら時間をかけて機構を活用した集積を進めていく方針。
核となる大規模シルバー担い手に不測の事態（急なりタイヤ等）がある一気に遊休化する懸念があるため、シルバー担い手を中心とした話し合いの場を設け、「どのように農地を守っていくか」、「スムーズなバトンタッチ」等を協議するなど、「信頼できる橋渡し役」として草の根的に活動。
この結果、地元若手への働きかけにより、シルバー担い手が懇意にしていた農機具販売店のスタッフが就農に意欲。
- 農業委員会は、機構を通じてシルバー担い手（70～80代）に離農者の農地を集積し、その間に次世代（60代）を育成してつなげていくという考えのもと、農地集積の重点地区（2地区）を設定し、集落座談会を開催。効果的な農地の保全管理やシルバー担い手同士が助け合って農地を守っていく仕組みを検討。
また、条件不利地の有効活用を図るべく畜産農家と連携した稲発酵粗飼料（WCS）栽培を推奨。
→WCS栽培に取り組む担い手が増加したことにより、条件不利地の遊休化を抑制。

機構の取組

- 専門員は頻繁に町を訪問し、町担当者や農業委員とコミュニケーションを図り、出し手・受け手の掘り起こしを行うとともに、機構活用の農地集積が定着するようシルバー担い手等へ積極的にPR。

今後の方針等

- 後継者不足に伴う遊休化を防止するため、定年退職者や年金受給者など、「まだまだ農業ができる人」へアプローチ。